

74新破天荒



七十四回生 二度目の船出です

第七十四回生二学年が本日始動します。心の準備はできていますか？

中堅学年

中枢学年

という言葉が、ことある毎に皆さんには投げかけられます。

それは、集団としてだけではなく、皆さんの人生においても、特に将来の「中枢」を担う大切な一年になります。

たくさん、

悩み ぶつかり 泣き

めげず 折れず 諦めず

進路達成の勝負の一年に向けて、心を太く、遅しく鍛えていく一年にしましょう。

食わず嫌い

私は、小さい頃から「大根・ピーマン」等の類が世の一般的な子供達同様、口にすることなく「嫌い」で、よく母親に叱られた、いや、無理矢理口に入れたものです。もちろんそれは、「食べる」意思がない状態で口にした物なので、「嫌い」が変わることはありませんでした。

時が経ち、大学生となり親から解放されて下宿生活という自由を勝ち取ったときに、初めて自らの責任での「生活」の難しさを知りました。仕送りという「予算」の中で生活を考えたとき、「自由」を優先してアルバイトに明け暮れ、「学問」という責任を放棄するわけにはいかず、この頃になって、自らの意思により、幼い頃から逃げ続けていた「食わず嫌い」の食べ物を、背に腹は代えられない予算の中でのやり繰りとともに、自らの「食べる意思」を持ちました。「食わず嫌い」を乗り越えたそれからは、調理を工夫したり、「食わず嫌い」であったことを後悔することを大変多く経験することができました。

新しい顔触れ

皆さんは今日、再び大きな「別れ」と、かけがえない新たな「出会い」の機会を迎えています。二年目にして初対面の人の存在が周囲に多くある人もいるでしょう。

「去年は良かった」

「去年が良かった」

今日、今、そう思ってもらってもかまいません。自分の経験してきた様々な「別れ」と「出会い」のこと

を、その後少しだけ思い出してみよう。

そこには、明日からの生活に不安を感じた人には「勇気」をもたらすものがあるはずです。

数多くの「別れ」と「出会い」の中で、皆さんは今の成長がある。短絡的に「別れ」が強くなりすぎて、自分の動きを止めてしまわないよう、「食わず嫌い」にならず、どうか自分の世界を拡げることができると捉えてほしいと思います。

チャンス

二学年は、まずは生徒会選挙があります。七十三回生生徒会とともに文化祭を盛り上げ、支える役目があります。秋には体育祭、そして、年が明けると修学旅行が待っています。

あえて言います。

「食う」か「食わぬ」か

今年もまた、後悔のない一年にしましょう。



二学年四月の予定

十日(月)	始業式等(済)
十一日(火)	新入生との対面式・課題考査等 (六時間)
十三日(木)	身体計測 (一・二時間目)
十四日(金)	離任式 (五・六時間目)
十八日(火)	教育相談
二十五日(火)	尿検査①
二十九日(土)	昭和の日

二学年五月の予定

二日(火)	尿検査②
三日(水)	憲法記念日
四日(木)	みどりの日
五日(金)	こどもの日
九日(火)	教育相談
十一日(木)	生徒会役員選挙
十六日(火)〜十九日(金)	中間考査
二十二日(月)〜	教育実習
二十三日(火)	教育相談
二十四日(水)	P.T.A総会
二十五日(木)	内科検診
二十六日(金)	尿再検査①

変更・追加はあります。気をつけて。



七十四回生二学年 学年団紹介 および 挨拶&激励

学年団を紹介します。

- 一組担任 寺脇 馨彦(数学)
 - 二組担任 渡会 雄士(保健体育)
 - 三組担任 大谷 睦美(国語)
 - 四組担任 名村 香織(英語)
 - 五組担任 および 学年副主任 井上 三帆(英語)
- 各先生です。

学年主任は変わらず荒内 秀明(数学)です。
そして、新たなメンバーを一人お迎えします。

井上 真梨奈(国語) 先生です。

七十四回生の皆さん、進級おめでとうございます。学年副担任となりました井上真梨奈です。昨年は言語文化の授業を担当しました。今年度も国語を担当します。

言語文化の授業では日本や世界の文化について触れたこともありましたね。私は学生時代、日本語教育も勉強しており、様々な国の人々と交流をしてきました。その度に世界の素晴らしさ、日本の魅力を感じてきました。国際交流基金のボランティアで仲良くなったニュージーランドの友だちは自国では授業を自身で選択して受講するので、いろいろな教科が学べる日本の教育がうらやましいと話していました。日本での生活中に服のボタンが取れ、お気に入りの服なので着たいのにボタンを縫い付けられなくて困ったそうです。その話を聞いて、幅広い教科を必修で学ぶことができる日本の教育のよさをあらためて感じた記憶があります。

そのような世界の文化等について授業でスライドを用いた発表の機会を設けると積極的に発表をしてくれた人もいましたね。世界の食事・住居・葬儀・成人式・ハンドサイン等、発表中には聞いている人から驚きの声が聞こえることもあり、多様な学び合いとなったことは大変喜ばしいことです。皆さんと一緒に過ごす中で、優しいところや自主的に行動し周囲への気遣いができるところ、面白くて楽しいところ等、多くの一面を発見した一年でした。そのような素敵な学年のみなさんとともに過ごせることを嬉しく思います。よろしくお願ひします。

最後に、二年生は進路に向かう大事な一年になります。中だるみの時期ともいわれますが、後悔することのないよう、一日一日を大切に過ごしていきましょう。

また、一年間お世話になった

押切孝雄(地歴公民)

先生が

本年は一学年担任となりました。

七十四回生の皆さん、2年生進級おめでとうございます。一年が終わる頃、皆さんは高校生活にもなれて随分と頼もしくなりました。学校生活においても中心となる授業には、意欲的に取り組みました。また、部活動をはじめとする課外活動では箏曲部や弓道部、空手道部が近畿大会、全国大会へと出場を果たし、学年の職員としても誇りに思います。皆さんが、この一年間多くの場面で活躍されたことを嬉しく思います。それぞれに大きな収穫を得たことを大切な財産としてください。

中堅学年として、また皆さんの将来を見据えるところからの時間が高校生活の本番であることをあらためて確認してください。一年を振り返り、成績が良かったり、部活動で成果を上げることができた皆さんは本当に素晴らしいです。ただ、この先も順風満帆に進むことができるかは、まだわかりません。また、この一年間思うような成果を上げることができなかつた皆さんは、こんなもので終わっていませんか。これら二つの立場は、良くも悪くも途中経過であり、皆さんのこれからの努力次第でどちらにも変わっていきます。時間は十分あります。自らの真の目標に向かって、自分の力を信じて貪欲に取り組んでください。きっとその先にはひとまわり大きくなった自分に出逢えるはずですよ。

「信は力なり」。京都市立京都工芸学院高校(旧伏見工業高校)ラグビー部の部訓です。全国大会で四度の全国制覇を成し遂げた強豪校。かつて予選大会で〇―一―二という屈辱的な敗戦から全国優勝へとの軌跡を歩みました。自分が選んだ道、好きなことには全力で取り組むことが成果を生むということ。勝ち負けだけでなく、

そこまでの過程が財産であるということだと考えます。今年の全国高校ラグビー大会(花園)では兵庫県代表の報徳学園高校が準優勝を果たし、姫路市出身の石橋チューカ選手(灘中出身)が活躍しました。七十四回生の皆さん

南高の先輩や石橋選手のように、自分の力を信じ、努力を惜しまず、しっかりと「前へ！」進んでください。



先述しましたが、「別れ」があり、「出会い」があります。それらは、本当は人を成長させるものであるはずですが、昨今は人の動きを妙に停滞させてしまいがちです。自分の中の安定感に安心することなく、自分の成長の糧としてくれる、これらの「出会い」と「別れ」の機会を見落とさず、しっかりと自分磨きをする一年にしましょう。

押切先生、一年間ありがとうございました。ただ、七十四回生は先生の目の届くところにいます。生徒の成長過程のために、今まで通りの叱咤激励をしてやってください。

井上真梨奈先生、昨年と立場は変わっても、目の前にいる生徒達は去年の延長線上にいます。遠慮なく生徒達を鍛えてやってください。何よりも、担任の先生方。生徒達をたくさん悩ませ、考えさせ、経験させてやってください。保護者の皆様。七十四回生学年団は、この一年、このスタイルで生徒と向き合っていきます。どうぞよろしくお願ひします。



去る三学期終業式に、全国高等学校空手道選抜大会の開会式が行われました。翌日の男子一回戦で、参加していた二人の一年生が明暗を分けました。

二人とも出場のチャンスがあったのですが、一人は練習中での負傷で出場のチャンスを逃してしまいました。もう一人は出場を果たしました。

その意味では二人は明暗を分けましたが、二人ともお金では買えない貴重な経験をしたことは、今後の生活・練習に反映されていくと期待したいです。また、各々が違う悔しさも感じて全国大会を終えたと思います。それもまた、今後の二人の活動を楽しみにさせてもらいます。

選抜で得た全国への憧れを、総体では勝ち抜いて全国大会の権利を手にすることを期待します。

同じ時期に、日本中(言い過ぎかもしれませんが)が沸きに沸いた、WBCでの日本チームの世界チャンピオンのニュースに負けじと、兵庫県の高校野球でも、全国準優勝というニュースが飛び込みました。本校野球部も、そのチームと対戦する可能性を手にすることができました。春の県大会での活躍を期待したいと思います。

二年生になる春休みに、七十四回生も含めて残してくれた成果です。二年生の出だしは上々です。

ところで、それぞれの部で、四月から顧問の先生が代わられ、新体制になった部もあると思います。「今から」と捉えれば焦りも出るかもしれませんが、「今まで」やってきたことを信じて、「今まで」ともに闘った顧問の先生へ、自分達の成長をしっかりと示すことができるように頑張ろう。

自分達を一番積極的に表現することができる場面の成長した姿を、お世話になった先生方に伝えられると良いですね。

今月の勧め

一月	「無駄」
五月	「諦めない」
六月	「捨てる」
七月	「チャレンジ」
一学期末	「さかのぼる」
九月	「テレビ」
十月	「大空間」
十一月	「無」
十二月	「こだわり」
二学期末	「信念」
一月	「探る」
二月	「自制する」
三月	「勇気を探す」
一年最終	
二年	
四月	「悩むこと」

気付けば、この・・・勧めシリーズも一スパンになってしまいました。言葉は悪いですが、無責任に思いついたことを勧めることができたならなあと悩みつつ、さて二年生のスタートは何を勧めていこうかと「悩む」自分に、なぜこんなことで悩むのか？と問いかけたとき、逆に「悩まない」とどうなるのか？も考えてみました。

皆さんも想像してください。毎日が悩みを感じることなく過ぎていくことを。

退屈な毎日からエネルギーを絞り出せるだろうか。悩みがないところから「たかが」の会話って生まれるのだろうか。悩みがないことって、本当に楽しいのだろうか・・・。

平坦で変化のない毎日での楽しみ方をこの昭和人に、良ければ教えてもらえればと思います。意外と、「悩む」と思いますよ。

つまり、悩むことの先には「人」があり、「物」があるということ。そこから「心」も生まれる、育つ、乱れたり整えたりすることで、己自身の成長をさせることに繋がっていくものです。

友達との会話のものを一度振り返ってください。結構・・・の勧めに結びついていると思います。

さて、七十四回生二年生は、どんな一年となるでしょう。何となく自分時間を失って、自分の才能、可能性を萎ませることがないような一年にはしないようにしてほしいものです。

まずは、明日の課題考査の準備に邁進して下さい。